

和み

第4号 2007.2

発行:滋賀県立リハビリテーションセンター
〒524-8524 守山市守山5丁目4-30

(成人病センター内)

TEL:077-582-8157 FAX:077-582-5726

HP:http://www.pref.shiga.jp/e/rehabili/

ゴジカラ村村長 吉田一平 氏

講演の様子



対談の様子



リハビリテーションセンター公開講座 まちづくり推進コース

「だれもが安心して暮らせるまちづくり」

講演を拝聴して

自然と共生するまち「ゴジカラ村」は「自然幼稚園」の開園から始まった。そこで、園児たちは自然のままの地形で遊び、土を素材に創造し、生き物の生きる姿を見つめるなど、田舎の原風景へ解放された。高齢者向けの施設も加わり、混在・共存、人としての尊厳、存在理由（立つ瀬）が認められる社会が生まれた。子供や孫の世代に配慮して、人間本来の自然なライフサイクルを考える地域社会づくりが進んだ。さらに、脱施設、地域全体でのケアへと展開されつつある。これらのことが話されました。

講演を通して、形成的な要素の大きいリハビリテーションの働きに多くの示唆が与えられました。一つは、自然との共生と言うこと、利便性によってではなく、自然の摂理の中で培われる滑らかなところを通して、生活に適応する智恵と技能が与えられるものであること。今ひとつ、異種のを排除し、同種のものしか受け容れられない現代社会にあって、混在する共存社会の中での支援を通して、落ち着いた、和みの生活が回復できるものであること。インクルージョン社会（認め合う人々の、共存の社会）に向けたまちづくり運動が各地に胎動している中、個々の変革に繋がれば幸いです。（所長 藤原 誠）

H18年度県民参画事業 湖北圏域コース



生きるエネルギーを再生産する

～あるデイサービスの実践～

12月3日に米原市にある文化産業交流会館で開催された、夢のみずうみ村代表の藤原茂先生の講演会に参加しました。先生自らが創意工夫を凝らして作り上げたデイサービスの様子を一つ一つ紹介しながら、

地域でのリハビリテーション実践の様子を伝えてくれる機会となりました。

単独デイサービスとしては、国内最大級。広大な敷地、神戸の異人館を思わせる内装。YUME（ユーメ）という村内流通通貨があり、プログラム材料費、カジノ・マージャン、村内買い物の支払いなどに利用できるといったエンターテイメント性も十分に兼備してあります。海に停泊しているクルーザーまで歩行訓練をして、クルーザーに乗って魚釣りに行くというメニューが用意されていたりと、一般的な「施設」「デイサービス」のイメージと大きく異なり、驚かされました。藤原先生が施設デザインのコンセプトは「環境の中にしかけがある。ここにいるだけで歩きたくなるような環境づくりが必要なのだ」と、言われていたのが印象深かったです。



また夢のみずうみ村での体験や学習を家庭で生かすようなしかけがあり、個々の生活背景に合わせた活動を提供しています。中でも食べることは誰にも共通する興味とし、利用者たちでパン教室や料理教室を行い得意分野を教えあったり、釜戸でご飯を炊いたりなど、個別性かつ質の高いプログラムが提供されているのです。

夢のみずうみ村は、生活者そして医療従事者の視点に加えて、研ぎ澄まされた感性があってこそ出来上がったデイサービスなのだと感じました。

リハビリテーションという言葉からは、病院での機能訓練をイメージしてしまうことも少なくありませんが、地域社会の中でその人らしく生きていくことについて、デイサービスの取り組みから考える機会となりました。（作業療法士 櫻井）



滋賀県連携リハビリテーション学会 研究大会が開催されます!!

滋賀県におけるリハビリテーションの現状と課題について理解し、より質の高い活動へと発展することを目的に開催されます。

基調講演には、日本リハビリテーション病院・施設協会会長で小倉リハビリテーション病院長の浜村明徳先生をお招きし、「医療・教育・職業・社会リハビリテーションの現状と今後の連携のあり方」についてシンポジウムも行います。また、一般演題発表や、福祉機器の展示も予定していますので、是非、ご参加ください！（どなたでも参加いただけます）

楽しそうでしょ？ リハ病棟クリスマス会

去年12月22日に、リハビリテーション病棟主催でクリスマス会を行いました。

いつもは白衣姿が多いスタッフも、サンタやトナカイ、浴衣姿に変装し、この日ばかりは皆さんに楽しんでもらおうと、プロ顔負け(?)の、ハンドベルや踊り、合唱を披露しました。

患者さんも、一緒に歌ったり拍手をして、会場を盛り上げて頂き、ささやかながらも楽しい時間を過ごしました！！

(楽しそうでしょ？↓)



福祉用具センター

草津市笠山にある「福祉用具センター」をご存知ですか？

長寿社会福祉センター(レイカディアセンター)の中にあり、一階は主に工作室や相談室、研修室があり、二階のフロアには「ところ狭し」と約750点の福祉用具が展示されています。階段・スロープや台所・浴槽なども設置されており、その場で相談や福祉用具の試用ができるようになっています。また、展示品の中にはこのセンターで製作されたパソコン周辺のいろいろなスイッチ道具や自助具も展示されていました。

福祉用具センターでは福祉用具に関する「展示・相談」、「改造・製作」、「研修」をおこなっています。住宅改修に関する相談にも対応しており、一般の方や医療・福祉スタッフからの相談も受けています。また、福祉用具の改造や製作に関しては利用される方の身体状況や生活環境なども考え、一人一人に合うようにされています。

研修会の開催もしていますが、依頼に応じて講師を受けることも多いそうです。

本当にいろんな用具があり、とても興味深かったです。

みなさん一度足を運んでみて、福祉用具に触れてみてはいかがでしょうか？

HPアドレス <http://www.shigasyakyo.jp/>



リハセンターの行事案内 & 滋賀県内のちょっと案内

日時・場所	タイトル・内容
H19年2月21日(水) 14:00~15:30 草津アマカホール	県民参画事業(湖南・甲賀圏域コース) 「旅という楽しみ ~ある片麻痺患者の足跡~」 目片和子氏(目片守氏)
H19年3月4日(日) 10:00~16:45 ピアザ淡海	滋賀県連携リハビリテーション学会研究大会 「世代や領域を超えた連携 ~これから期待される地域リハビリテーション~」
H19年3月6日(火) 14:00~16:00 てんびんの里 文化学習センター ホールあじさい	県民参画事業(東近江圏域コース) 「歌を忘れてカナリアが・・・ ~失われた言葉を求めて~」 声楽家・武蔵野音楽大学講師 原口隆一氏 ※ミニコンサート&講演

<http://www.pref.shiga.jp/e/rehabili/>
事業や企画など最新情報が掲載されています!

編集後記

リハセンターが閉所し、今年度は「和み」4月号まで無事発行あることができました。なんとか手探いながらここまで作る事ができましたのも、みなさんの協力のおかげです。ありがとうございました。

来年度も当センターの主催行事だけでなく、県下の様々な情報を提供していきたいと思っておりますので、情報をお寄せください!

(理学療法士：大野)

僕 ユニバーサルデザイン なんだよ♪

ユニバーサルデザインとは?
年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、すべての人が利用可能なように、常に良いものに改良していくという考え方です。



中はこんな感じに
空洞になっています

名前 ほのぼの湯のみ

チャーム
ポイント

普通の湯のみにみえますが、実は二重構造でできており、内側に傾斜がついています。内側に傾斜がついていることで、肘を高くあげなくても、底まで飲みほすことができ、むせやすい姿勢をとらずにすみます。さらには、二重構造で中が空洞になっているため、保温や保冷の機能ももっている優れたものです。

(作業療法士：佐野)